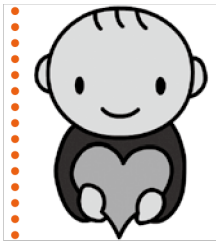
こ・こ・ら・ぼ

～こころのコラボレーション～



スクールサポーター
（臨床心理士）
小林　真理

地域の力
～特別支援学校に就学するということ～

「兄弟の中で一人だけ学校が違うなんて…本人も他の兄弟もかわいそうで…」

「園で他のお友達が話しているからか…、うちの子も『ランドセルもって小学校』なんて家で話しているんですよ」

そろそろ小学校進学のための準備を始めるこの時期。この頃になると、特別支援学校を進学先として選ばれた年長の子どもをもつ保護者やご家族の方から、心の揺れを伺うことが多くなります。何度も見学や体験を重ね「本人のニーズやペースに学校の時間・環境・内容が合っていると思うし、それが本人にとって生活全般の安定とその時々の伸びにつながる、できることにつながる、将来につながる」と信じて選択したことであっても、同じ年代の子ども達、兄弟のことを考えると心が揺らぐのは当然のことと言えます。

町の小学校の特別支援学級でも、その子ども一人ひとりのニーズに応じた支援ができるように支援体制を工夫し、保護者の方と相談しながら最善を尽くすように努めています。しかし学校側も明らかに「できないこと」を「できる」と言って、受け入れをすることはできません。とはいえ最終的な進学先を決めるのは保護者の方ですので、「学校に拒否される」ということはありません。ですが主役である子どものことを考えると、入学前の2年間、つまり年中の段階から選択先となる町の小学校と特別支援学校で「折り合いのつけどころ」を相談し、見学・体験を重ねていくことが大切になってくるのです。

そういった**経緯をたどってきた保護者やご家族の方でさえも心が揺らぐのは、やはり「友達と、同年代の子と、地域の子と一緒に育ってほしい」という親心や、「我が子にとって特別支援学校がいい、っていうのはわかっているけど、そうすることで地域から忘れられてしまうのではないか」という親心があるからです。そしてこういったお話を伺っていくとキーワードは「地域」なのだと強く印象づけられます。**

では「地域」の一員として、私たち一人ひとりにできることは何か。何か特別なことをするべきなのでしょうか。いいえ。特別なことではなく、**他の子どもと同じように「地域の子ども」として関わり、見守っていくこと、そして必要な時に手助けをすることが、私たちにできることです。その関わりの中から小さな気づきを経験することで、「あの子はどんな子なんだい？」と、もっとその子どもを知りたい気持ちが芽生えてくるのではないでしょうか。**

こうしたことが特別支援学校を選択したご家族にとって「我が子を地域に出しても大丈夫」という地域とのつながりや安心感になります。

このように地域のみなさんの小さな気づきが育っていくことがつながりのある地域の力となっていくのですね。

植物園だより

ヤマウルシ

今月中旬、ヤマウルシや、オオモミジ、カジカエデ等の紅葉が園内を彩るようになります。

◆10月花ごよみ

果　実
アラゲガマズミ、シオデ、ナツハゼ、ミヤマウメモドキ、ムラサキシキブ、ヤブサンザシ、ヤマブドウ

紅　葉
ツタウルシ、ナツツバキ、ハナノキ、ヒトツバカエデ、マルバノキ、ヤマウルシ

※主なものを掲載

●絵葉書発売のお知らせ

春から秋に園内を彩る代表的な植物のオリジナル絵葉書を新たに12種類作成しました。
お土産や来園の記念にぜひお買い求めください。

オリジナル絵葉書
販売価格　1枚　50円

入園料　1人1回　100円（小学生以上）

【問い合わせ】町植物園　☎48-3337

うれしいな　ドアをおさえる　あなたの手
小学６年生「人権カルタ」より